

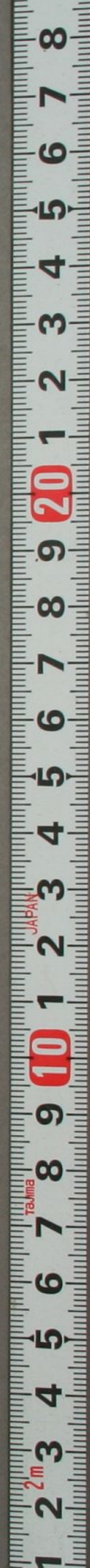


續法原
天

中村俊定文庫

文庫 18

104



判者四人
 四季之句合
 五哥仙
 撰者
 春 素堂
 夏 調和
 秋 湖春
 冬 排青
 不卜
 才丸
 牛角



外と務六をきえの向乃因多詔終れ
 根代書よこしよあつし後此家
 のほあきちう一はあつくはくのこ
 らまを合さく申あ野乃ゆん
 交迄起の何しよ判さ終るん
 雲あつくも神もきよのいかにあ
 月あ年きつらつえきんあ

勢さくく柳さくく月さく
松さくくさくく

一研行不卜



一番
左 芥 持

手さくく入さくくわさくくおね田芥哉 奉白

煇 存さくく思程摘根芥さくく芥 口齋

おさくくさくくぬさくく神さくくぬおさくくハ花さくく
さくくわさくく也芥さくくハさくく似毫さくく
ひさくく松さくくハ根さくくひさくく青園さくく
奉さくくハさくくハさくく用さくくてたおさくく
乃人さくくさくく芥さくくさくくさくく芥さくくさくく
左丸無後方



四番 左 五加 持

く〜飛く家らじとふ五加我 峽水

右

道了し五加と立れ念佛〜 扇雪

左 孤村〜

右 鳩〜

わ〜

〜

持〜

五番 左 蝶 勝

い〜の〜捨子〜胡蝶 溪石

右

わ〜ら〜さ〜ら〜似合〜 委歌

わ〜お〜り〜

心〜わ〜き〜

左 乃 胡蝶

何〜

〜

六番 左 鸞 持

落之くし 流る水の心はくもあ 一 排

右

是より〜 中よみと侍はち哉 心水

か〜〜〜 妙なるあひのり

〜〜〜 風流

た〜〜〜 情

た〜〜〜

七番 左 落花 勝

古井 七々 落花 花らり 水み 隈 仙化

右

花の 雨 墜

左中 七々 落花 花らり 水み 隈 仙化
こ〜〜〜 妙なるあひのり
〜〜〜 風流
た〜〜〜 情
右も 妙なるあひのり
〜〜〜 風流
〜〜〜 情

八番 左 押

左の力もきぬ仰し水 蚊足

右 勝

本巻入眠り落つる押 哉 琴風

右まき道 三日のひつりかきと

し置くは句才二日不落

左心もあきらみんぬ

右 太 太

九番

左 雲雀 勝

世にて神へ巻込云雀の 真見

右

天士日月和らきまらう又ひるま 立坐

又ひるまはあはれ

かゝるまはあはれ

神へ入る雀

祖生一着ノ鞭

し

拾番

左 本丸 持

世の何れも世よれれれ本丸は、危房

右

世の何れも世よれれれ本丸の心 紅林

左名

ほまねと

たき

ま

ま

ま

十一番

左 本ノ目 持

鶉鳴く本丸月と明月の詠々 朱経

右

まよふ能てまよふしるる本丸月也 鷗白

まよふ能てまよふしるる本丸月也

左 難解しるる本丸月也

まよふ能てまよふしるる本丸月也

不方 甲

十二番 左 櫻 持

櫻りくはを五り人言わすし 其角

右

くはあさるに傘さして山櫻 不ト

左 生田入森鳥と

りくんとゆきことと

吟して筆トと

古き世の友不ト子十餘とゆき
の句をを神ト事ト新ト心
狂可くくいと他の心狂くか
左 毫 大鶴あし事ト
こ風雅れらし事ト人ト
世ト是起と解ト人稱起のゆと
紙判トかくしと事ト人又いと
無刺の判も刺あし事ト丁外之冬

素堂書目

一番

左持 卯正

卯正や里のそととく朝朝

露沾

右

高のちや卯正の卯正

不卜

左玉子のそととく卯正の卯正

片一里とそととく卯正の卯正
一枝清酒

出諫離れそととく卯正の卯正
卯正の卯正の卯正の卯正
卯正の卯正の卯正の卯正
卯正の卯正の卯正の卯正
卯正の卯正の卯正の卯正

二番
左持

村雨ノ年 游々々々 舞舞 柘風

龍馬ノ年 舞舞ノ年 舞舞 調押

舞舞ノ年 舞舞ノ年 舞舞ノ年

舞舞ノ年 舞舞ノ年 舞舞ノ年
舞舞ノ年 舞舞ノ年 舞舞ノ年
舞舞ノ年 舞舞ノ年 舞舞ノ年

三番
左勝 筍

垣根ノ年 舞舞ノ年 舞舞ノ年 全峯

名

古井ノ年 舞舞ノ年 舞舞ノ年 不諫

舞舞ノ年 舞舞ノ年 舞舞ノ年
舞舞ノ年 舞舞ノ年 舞舞ノ年
舞舞ノ年 舞舞ノ年 舞舞ノ年
舞舞ノ年 舞舞ノ年 舞舞ノ年
舞舞ノ年 舞舞ノ年 舞舞ノ年
舞舞ノ年 舞舞ノ年 舞舞ノ年

六番 左持 萬尾

萬尾しとくく 儀之居と古平の安 扇音

右

様のとくくく ぬき有の儀 雨聞

古墳の萬尾しとくく 曲く

蝶のしとくく ぬき有の儀

ハシとくく ぬき有の儀

ハシとくく

ハシとくく

七番

左持 夕顔

夕不や右と左の儀 花の形 玄來

右 夕顔

夕不や右と左の儀 花の形 調義

夕不や右と左の儀 花の形

夕不や右と左の儀 花の形

夕不や右と左の儀 花の形

夕不や右と左の儀 花の形

夕不や右と左の儀 花の形

八番

左 勝 故遣

一筋八標とまきしむねさる 二齋

名

岸しきぬいりかきし舟おき石 漢石

たりの句標しゆしゆ一筋の相

まきかしてさうとあし

たんのいりかきし舟のなやあつ

しきわしたりのまきしん
まきしん

九番

左 持 軒

關伽棚しゆしゆまきしん 軒下 峽水

右

かきしゆしゆのなかからまきしん 心水

境毎のありの楢のまきしん

まきしんまきしんまきしん

まきしんまきしんまきしん

かきしゆしゆのなかからまきしん
まきしんまきしんまきしん
まきしんまきしんまきしん

十番

左 蓮

音に別て研まじぬらんしよ 勇招

右 勝

色あきても水とりのびいん 野馬

左の蓮の自雷の音の音はあは
とまむらふらんたふんを無事の
蓮よりよわて水とのびいん
ふんはあはらんくことその
けしたるらんきと東は
けいあはらんきと東は

十一番

左 勝 涼

舟もくしん 木かきとおし涼哉 不角

右

舟のや横かきとらゆり 琴風

たのこもまのけい舟とを終月
る者もまのけい舟とを終月
うのゆりを係らんわたり
ゆりも也 友又 輝し
ぬりぬり 輝して 横かき
とらゆりぬりぬりぬりぬり
たの納涼哉

十二番

持 侍水

持 侍水 風水

右

持 侍水 嵐水

持 侍水 嵐水

持 侍水

持 侍水

持 侍水

持 侍水

持 侍水

持 侍水

調和

一番 左 勝 初秋

又月之影と感とる、虫聲の内 其角

枯凡の心動きぬ 縄すゝぬ 嵐雪

左、琪樹西風枕簟秋さういり秋思は情
をのつ~~~~つらつて新涼さるる園中竹葉之
の窸裏つ~~~~しきしきと西風さるる感さるる
の字さるる~~~~るるるるるるるるるるるるるるるる
ねの其心はゆりのさるるるるるるるるるるるるるるるる
つと縄さるるれ寂寥さるるるるるるるるるるるるるるるる
さうて肌骨よぬらつて可心とるるるるるるるるるるるる
まゐり秋のまゝ秋とゆきさるるるるるるるるるるるるるるるる
ゆきさるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

四本鳥

左 萬

そなたの風吹のふれきりよ

蚊足

右 勝

みづのうらみさきよ

扇雪

左 信のうらみのたまりよ
中 ありあけのうらみのたまりよ
右 侍よさきよ
しんごのうらみのたまりよ
しんごのうらみのたまりよ
其侍よさきよ
定行

五本鳥

左 勝 鷄

かきこもさくと 藤紋のうらみ 琴風

右

色あ 藤紋のうらみ 沽荷

左 藤紋のうらみ

右 のうらみ

左 藤紋のうらみ

右 のうらみ

左

六書 左 駒込

照子月一 駒込 調栞

左 膳

幸くや清らかきるゝ物也人 三齋

たのまされぬまゝのいづれか
とちありいづれかやと物じ
の影よひのいづれかあり
まゝあつてもいづれか
くちのいづれか
とまゝのいづれか
いづれか

七書

左 持 簿

折とていづれか 誰か 松濤

右

折とていづれか 仙化

たのまされぬまゝのいづれか

いづれか

十青
左 勝 園

虹消くれば水尋ねりう蘭のこ 勇招

七

うりさめさる馬まじくう蘭成 雨圍

左

柳のくえ 渾とくくう蘭

左

蘭が暖海のひらひら

~~~~~

十一青  
持

左 持 秋 寂

静かなる動る海の日くわ 一 排

右

秋のし 誰と云ふと 鳴 池の 電 不 卜

秋の長とさいかに色も

~~~~~

~~~~~

又 秋の 電 鳴 池の 電 不 卜



上 七  
不為入風傳一うわと  
うふふふの能きうとまを  
うふ持てう

筆ととちりし

洛陽

湖春書

一番 左持 落葉

落葉のぬれ葉にらるる葉 風水

た

落葉をてらるる葉のつらき塔の山 松儔  
たり乃句景氣微細し心をけりる  
た又山とわくくの山柳の諺一句  
乃たをてらるる山柳のつらき山柳の句  
中同也てらるる山柳のつらき山柳の句  
云々山柳のつらき山柳のつらき山柳の句  
乃たをてらるる山柳のつらき山柳の句  
と難しや ぬれ葉のつらき山柳の句



二書

左 勝 霜

親とふれおとせとかし野馬成 漢石

右

高うし麻とがさりおの舟 勇招

しれいんぬりもひらきつらふと  
あふわさをうらひ親のよとけり  
せうみんぬりしうらひ  
いり路馬のまふしうらひせり  
その句さむわいんぬりたの句  
あふぬちうらひ

しれいんぬり

二書

左 持 右 貞

そとよし月本うらひお母成 三齋

右

しるき推得たててなとけし 文謙

しるきの句推得たててなとけし  
形をいりししししし  
たの句さむわいんぬりたの句  
たの句さむわいんぬりたの句  
たの句さむわいんぬりたの句  
たの句さむわいんぬりたの句



四番

左 勝 枯野

打首と枯草と月と山 嵐と舟 松風

右

大橋と枯草と月と山 入り子 金峯

左の句も枯れ草と月と山 嵐の舟と松風と  
舟と山と月と山と松風と  
舟と山と月と山と松風と  
舟と山と月と山と松風と  
舟と山と月と山と松風と

五番

左 持 網代

子と山と月と山と松風と 心水

右

網代木の山と月と山と松風と 不角

網代の山と月と山と松風と  
舟と山と月と山と松風と  
舟と山と月と山と松風と  
舟と山と月と山と松風と  
舟と山と月と山と松風と

たがふ山と月と山と松風と



六番

左 勝 乙 五 葉

初お葉のツハニ顔心と袖子 調栞

右

月と咲也誰の川捨一宮車此 立此

たりの句袖さらし  
己の心もさうさうし  
もたりの心もさうさうし  
川一捨一宮車の句意  
とくもたりの心

何心たりの心

七番

左 勝 鴨

鈴鴨の色うら海より月真一 嵐雪

右

鴨くいて茶もと下枯と塩屋の作 真見

すかしの句袖さらし  
年一旬やさうさうし  
しきあつたを似味し  
吟しつたを似味し  
去き舞一さうさうし  
玉巻を卸しもの  
もの色句調めし



八音

左 氷柱

風 氷柱よこころの楓哉 一排

右 勝

門 氷柱よこころの楓哉 琴風

氷柱よこころの楓哉のりゆき  
細くくひくひなをまはるる  
相しゆくしゆくしゆく  
つらゆき門よこころの楓哉  
感情

九音

左 持 家奴

行つての教へその信三ト 李下

右

本 氷柱よこころの楓哉 仲風

列風寒感の存えそのまこと  
いつかかかかかかかかかか  
こけけけけけけけけけけけ  
野馬のまかかかかかかかか  
云けらわらう 國也るる 如 師 曠  
う身とくくくくくく 離婁の月のまを  
くつとくくくくくく 大なるのまかかかか  
まわらわらわらわらわらわらわら















